

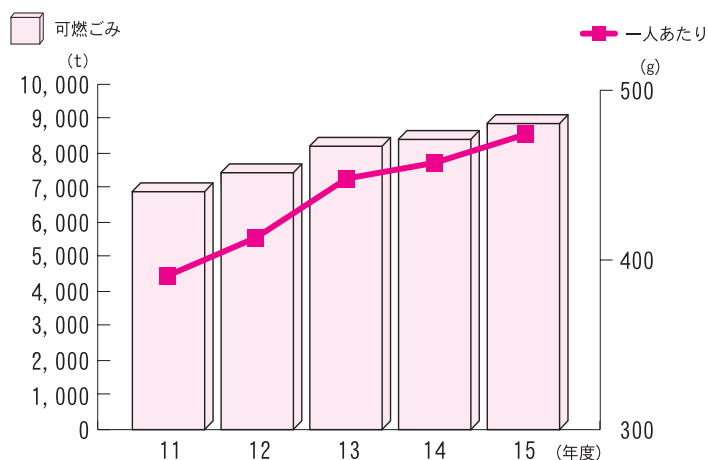
減少のはずが・・・

私たちの身近な周りで「環境」といえば、まず「ごみ」が思い浮かびます。

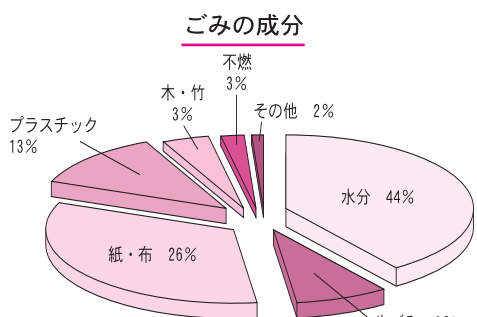
私たちの日常生活や通常の事業活動により、ごみが生まれます。

では、いったいどのくらいのごみが、排出されているのでしょうか？

生活系可燃ごみの年間排出量と
1日人口一人あたりの排出量（年度別）



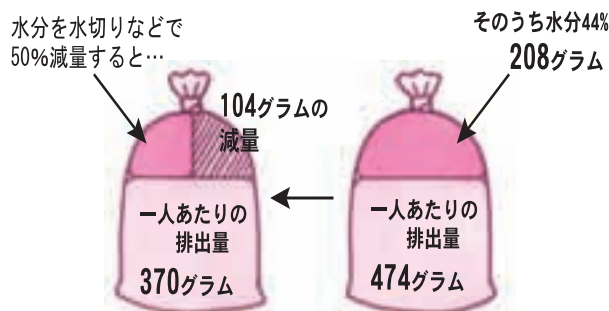
■ 増え続ける「ごみ」
平成15年度に、市内から可茂衛生施設利用組合「ささゆりクリーンパーク」（ごみ処理施設）へ排出されたごみのうち、「可燃ごみ」は13、794トンにもなります。可燃ごみは、一般家庭から排出される「生活系」と事業所などから排出される「事業系」に分類されます。このうち、「生活系」についての排出量を調べると、分別収集が



注) ごみの成分は、季節などによっても大きく違います。（資料：可茂衛生施設利用組合）

■ 減量は、「水切り」
ある市民意識調査によると、「ごみは家庭でたい肥化し、ごみの減量に努めている」という回答が47割もあるにもかかわらず、1割として可燃ごみは増え続けています。

■ 減量は、「水切り」
浸透しているにもかかわらず年々増え続けています。11年度6、890トンであったものが、15年度は8、864トンとなり、28・7割も増えています。これには人口増加などの要因もあります。そこで、1日の人口1人当たりの排出量で換算してみると、11年度には390グラムであったのが、15年度は474グラムとなり、21・5割も増加しています。



この可燃ごみの量を減らす方法はないかとその成分を調べてみると、約44割が水分であることが分かりました。仮に生ごみなどの水切りをしつかりすることにより、水分を50割減らすことができれば、一人当たりのごみの排出量は、イラストの通り約104グラムの大減量につながります。私たちは、ごみの減量を身の回りでできることから実践して、「限りある資源」について真剣に考えなければいけないのではないのでしょうか。